

京の大人の英知、注入マガジン

京都CF

[シー・エフ]

BACK ISSUES

お近くの書店でお求めになれない場合、ご希望の号数と部数をお電話もしくはファックスにてフェイム事務局までお申し込み下さい。在庫の確認をさせていただきます。その後、代金と送料を切手でお送りいただければ、到着し次第ご送付いたします。

2003

No.234



別冊 京都CF!

京都ブランド vol.3
正味ガイドブックにあらへん
スキマ京都・探訪ガイド

定価800円
(送料108円/1冊の場合)

No.236



2003.11th

特集
ストア・エンジニアふたり
〜暮らしと、店舗・エンジニアの日常〜

定価350円
(送料92円/1冊の場合)

No.235



2003.10th

特集
京都、創食の師弟

定価350円
(送料92円/1冊の場合)

No.233



2003.9th

特集
自分だけの京、
心尽くしな贈りもの

定価350円
(送料92円/1冊の場合)

年間定期購読

1年間分の「京都CF」を郵便振込銀行引き落としにて、4000円(消費税200円)で予約購読いただけます。お電話もしくは書末ハガキにてご連絡ください。改めてお申し込み用紙をお送りいたします。

フェイム事務局

〒604-0134 京都市中央区九条通西丸太町大塚ビル2F
TEL.075-256-7555 FAX.075-256-7557

ホームページからもお申し込みできます。
<http://m21.or.jp/fame>

こっそり部屋の本棚におきたくなるバックナンバーです。



作家

きむ

K I M

【プロフィール】80年、福井県に生まれる。高校時代に友達の影響を受け、詩を書き始める。'98年、京都芸術短期大学入学で入浴。在学中に、写真と詩を組み合わせたポストカードを路上で売り始める。卒業と同時に「きむカンパニー合資会社」を設立。

京 TIAN I.D.
キョーティアンアイディ
The 109th person

砂漠に落ちた水滴のごとく 心にしみ入る言葉の使い手



常に持ち歩くメモ帳カメラ。メモ帳は「ずっと無印良品のコレで50冊目くらいかな? これは新しくしたばかり。ゆえに中にはメモ帳とペンを入れるためのポケットが付いていることが必須。カメラは2代目



「その趣味がいい」と写真はすべて本気で撮影。作品用に撮り貯めたものだけでも膨大だが、サイン会に来てくれた人も全員撮影しているから、その量は別々と増え続ける。すべてがファイリングされ、壁つたオフィス



本と言うよりは、ポストカードの集大成といった存在感ある一冊「想い描く世界に」1800円。ポストカードの種類は現在100種近い。すべて150円。作品のすべてはPでオンラインショッピングが可能

Information

- 「きむカレンダー2004年版」
京都LOFT、HPで発売中。
- きむの本「想い描く世界に」
フレジックヴァンガードなどの雑貨店・書店ほか、HPでも発売中。
- URL : <http://kim-company.com/>

国語は赤点(だったこともある)、小説は読まない(今も)、漫画は好き(今も)。「こいつを伝えたくてこの詩を書く、じゃなくて、生きていく中でぱっと思いついたものをメモしているだけ。自転車乗ってる時とか、お風呂入ってる時とか、寝る前とかにね」とあっけらかん。「写真も「いいなあ」と思ったらパシャ。うまくないから、現像されて「おおっ」って思うことも多い」と笑う。そうして生まれた詩と写真、「一つ一つが間違えて〜」、作品がひとつ誕生する。

誰かを勇気づけるための言葉が溢れるポストカード。励まされるから、極まれるからと老若男女を問わず幅広く支持される、詩と写真。その作り手がきむ氏だ。作家にして、8人のスタッフを抱える社長でもあり、一児の父でもある。高校生の頃、「詩を書いている」という友達を見て「僕も」と思ったのが、詩との出会い。特に勉強したわけでもなければ、作りこんだわけでもない。「実体験です、すべて」と言うように、感じたことを書き留めた。時には「えーっ、僕ってこんなこと思ってたん?」と思うようなことを手が勝手に書き出すこともある。それを誰かに伝えたくて、友達を勇気づけたくて、形にしたのがポストカードだった。最初は文字だけを刷ってみた。次は誰か知らない人の撮った写真と組み合わせしてみた。どうもじっくりこない、自分なりに写真を撮り始め、現在のスタイルが確立した。そして寺町あたりの路上に並べて売り始めた。買ってくれるのが嬉しくて、どんどん作っていったある日、ふと起業家の思考がよぎる。「一人で売る分には限界がある。だったら売ってくれるところを探そう」と。かくしてイノブや東急ハンズといった雑貨店への営業がスタートする。結果、受け入れられた作品は好評を博した。「僕を見てくれた人が元気になろうと思ってくれる。その道を僕一人で作ったんじゃないけど、何人かでやればもっと広い道が作れる。そうすれば日本はもっと元気になるんじゃないか」と会社組織も立ち上げた。ポストカードの売り上げは日本全国で120万枚を突破し、作品集「想い描く世界に」も出版した。

会社設立から2年半、順調なすべり出した。ただ、どんな人が読んでくれるようになるうとも作り方や考え方を覚える気持ちはない。思いを書き留めるメモ帳は50冊を数えてもおな、同じスタイル。サイン会に来てくれるファンひとりひとりを、しっかり心に刻むため全員の写真を撮らせてもらう。友達ともスタッフとも家族ともしっかり過ごす。そのライフスタイルからこぼれ落ちた言葉、その目で捉えた一瞬。それは演出では決してないからこそ、心を掴むキーになるのだ。